

平成 21 年度 児童・生徒 平和に関する図画・作文コンクール

審査講評 図画の部

本コンクールは今回で 2 回目となる。応募点数は去年（132 点）をはるかに上回る 555 点で、小学校からの応募が特に増えた。それらの中から村長賞 1 点、教育長賞 1 点、優秀賞 12 点、入選 43 点が決まった。

審査においては、去年同様、次のことを基準に進めていった。まず、本コンクールの主旨である“戦争と平和について考えるとともに平和を尊ぶ心を育む機会とする”に合致した作品であるか、次に、内容として“沖縄戦について直接体験者から聞いたり、映画を見たり、本などを読んで感じたことを自由に描く”ということなどである。そして、それを表現するための形や色、画面全体の構成、さらに、発達段階に応じた表現であるか、などを総合的に吟味し、慎重に選んだ。

小学校高学年と中学校の作品には主旨や内容にある“戦争と平和、沖縄戦”を意識して描いた作品が多かったが、小学校低・中学年の作品にはそれがほとんどなく、身近な生活の中での平和な暮らし、世界のみんなと手を取り合って仲良く暮らす、動植物との共生などを表現したのが多かった。図画としての表現手法から総合的に講評すると、それぞれの校種、学年とも発達段階に応じた表現の力を発揮した作品が多く、読谷の子どもたちの頑張りを感じた。描画材のクレヨン、水彩えのぐ、フェルトペンやマーカーの使い方もよく工夫され表現の広がりも感じ取れた。

次に、村長賞と教育長賞の 2 点について講評をする。

村長賞：本村美夏 古堅中学校 2 年

しっかりしたデッサン力、見事な色使いにより、人物の表情が豊かに表現されている。その人物をメインにした画面上部の戦闘機による攻撃シーン、画面右側の白ユリ、中央左側の折り鶴の配置など画面構成にも繊細な配慮がなされ、素晴らしい作品となった。内容的にもそれらが総合的に整理され、戦争のもたらす悲しみ、そして平和への願いが感じられる作品に仕上がっている。

教育長賞：長浜真理 喜名小学校 6 年

ぶきみな黒い戦闘機が空を飛んでいる。その空はだいたい色にそまり灰色の煙のようなものがあたり一面をおうている。野山には砲弾がうち込まれ、いたるところで爆発している。左てまえには防空壕の中でひとりの子どもが涙を流して立っている。長浜君は大人の方から恐ろしい戦争の話聞き、自分の心の中で感じ取ったものをこのように表現したものと思われる。色使いや画面構成もすばらしい。

多くの出品者のみなさんありがとうございました。

ご多用の中、本コンクールにご尽力なされた先生方、誠にありがとうございました。

審査員：波平栄宏、与久田健一 平成 21 年（2009）6 月吉